



令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果

令和7年10月
京都市立高雄小学校
校長 平野 智洋

4月17日に、本校6年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、結果がまとめました。本調査は、国語・算数・理科の3教科のテストと同時に家庭での過ごし方や学習時間と聞く調査も実施されました。調査結果を基にして、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総合結果（国語・算数・理科）

国語、算数・理科共に、全国・京都府の平均を下回りました。国語と算数においては、思考・判断・表現に関する問題につまずきが見られ、国語科の結果からは、読解に関する問題に落ち込みが見られました。どの教科においても問題の意味を把握し、深く読み取る力は大切です。子どもたちの読解力の向上につながる取組の必要性を感じる結果となりました。

国語科より

全体の平均正答率は全国平均、京都府平均共に下回りました。その中では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の知識理解についてはできていました。漢字を文の中で正しく使うことができるかを問う問題は、正答率が高く帯時間や学期末に行われる漢字チャレンジなどを通じて漢字等の基礎が身についてきたように思います。

「書くこと」「読むこと」などの思考・判断・表現を問う問題については、課題が見られました。特に目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけることができるかを問う問題では、目的を読み違えたり必要な情報を読み取れなかったりと読解力に問題が見られました。

読解力を身に付けるために、日々の読書習慣はもちろん作者や筆者は何を言いたいのか、思いや主張を確かめたりその理由は何か自分はどう思うのかなどを考えたりする必要があります。

算数科より

全体の平均正答率は、全国平均、京都府平均共に下回りました。「変化と関係」の領域では全国・京都府の平均を上回りましたが「図形」等の領域では下回ることになりました。

異分母の分数の加法の問題は、大変良くており帯時間での基礎基本の定着を目指した問題演習が成果を上げているように思われます。

一方、同じ分数でも数直線上に示された数を分数で書く問題では、整数や小数の数直線の目盛りが0から1までの間を $10, 100, 1000\cdots$ と区切っているのとは違い3等分されていて、1を3つに分けた1つの目盛りが3分の1と表せない児童が多くいました。分数の数の概念（単位分数は1を○つに分けた1つ分、分数はその単位分数がいくつあるかで表される）や小数、整数の概念についても学習の中で何度も確認する事が大切です。0.1とはどんな数なのか1万とはどんな数なのかなど何度も確認する必要があります。

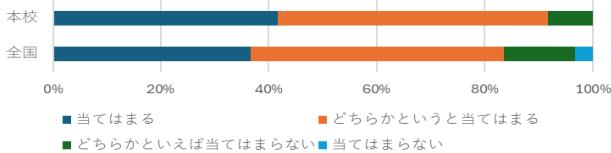
理科より

全体の平均正答率は全国平均、京都府平均共に下回りました。その中では評価の観点では思考・判断・表現を問う問題については記述で答える問題についても比較的正答率が高くなりました。しかし、3年4年の知識を改めて問う問題に関しては正答率が低く知識の定着に課題が見られました。

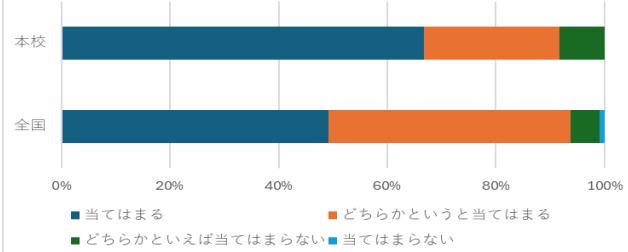
その中でもアルミニウム・鉄・銅について電気を通すか磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるかを選ぶ問題では多くの児童が全てを正しく選択することができませんでした。特にアルミニウムと銅の性質について正しく解答できていないことが多く見られました。また、温度と水の状態の変化を問う問題についても正答率が上がりませんでした。知識を問う問題については、習った学年での正しい知識の定着と他学年での繰り返しの確認が大切です。また、知識は、活用し、自然の事物・現象と知識を関係付けたり、知識を相互に関連付けたりして、理解を深めることを意識して学習を進める必要があります。

児童質問紙調査から

あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか



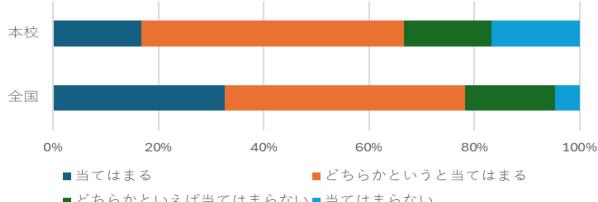
人が困っている時は、進んで助けていますか



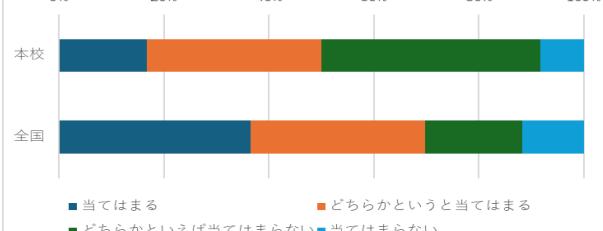
本校では学級活動の話し合い活動に重点を置いて取り組んできました。その成果が表れているようです。互いの考えを認め合い、合意形成をはかりながら意思決定ができる子どもたちを育てるために今後も引き続き取り組みたいと考えています。また、学年を越えて児童同士の仲がよく、お互いを思いやって行動することができているところが高雄小の子どもの素晴らしいところだといえます。

自分と違う意見について考えるの

は楽しいと思いますか



読書は好きですか



学級会での話し合いで、お互いの意見を尊重しながら、合意形成をすることができるようですが、一方で自分と違う意見について考えることについてはあまり楽しいと思えていないようです。自分と違う考えについて考えることでさらに自分の考えが深まったり新しい考えが浮かんだりすることができます。学習の中で、そういうことが実感できるような機会を作っていくことを考えています。読書についても、あまり積極的に読書に親しめていない状況が現れています。今後も引き続き、学校図書館の利用を促したり、図書資料をつかった学習を計画したりするなど、読書活動の推進に今後も取り組んでいきたいと考えています。

全体を通して本校の成果と課題

質問紙調査から、高雄小の児童はお互いを尊重し合いながら思いやりをもって生活していることがうかがえます。たてわり活動をはじめ、学校生活のいろいろな場面で、全ての児童が学年を越えて仲良く関わり合って過ごしているところが高雄小の素晴らしいです。

そんな安心できる良い環境の中だからこそ、「自分と違う考えを認めて、自分の意見をさらに深めていく」ことに取り組んでいきたいと思います。多様な考えを認め、新しいものを創り出していく力は今後、社会に出ていく時に必要不可欠な力だと思います。そんな力をつけていくために、取り組んでいきたいと考えています。

保護者の方へ

今回の調査で見えてきたことについては、学校だけでできたもの、変えていけるものではありません。家庭・地域・いろいろな方々とのかかわりがあったからこそだと考えています。今後も引き続き、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力を願い致します。